

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 4 月 1 日

氏 名 木 村 正 徳

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
臨床心理学	心理療法、カウンセリング、学校臨床、教育相談、事例研究	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ① 手書きレポートの提出	平成 30 年 4 月 ～令和 5 年 2 月	大阪学院大学教職課程「教師論」の講義において、専用の原稿用紙を作成し、手書きレポート（原稿用紙3枚程度）を5本書かせた。中教審答申の中間答申で「A4の紙に原稿用紙三枚分ぐらいで、何かをまとめる力」をつけることが日本の教育の目指す方向として示された。教育の場に立とうとする者に、この何かをまとめる力は必須である。何かをまとめる力を確認するとともに原稿用紙の基本的な使い方の確認も含め、手書きレポートを書かせた。提出されたレポートを添削し、文章力の向上も図った。その結果、学生の文章力の向上とともにまとめる力の向上も図れた。
② 視聴覚教材の活用	平成 31 年 4 月 ～令和 5 年 2 月	大阪学院大学教職課程の講義において、より具体的イメージを持たせるためにDVDを使用した。「教師論」において、教師の生徒に対する態度を考えさせる為に「3年B組金八先生」のDVDを鑑賞させたり、「ビリギャル」の映画(DVD)を鑑賞することを課題にした。また、「生徒指導」で、いじめについて考えさせる為に「青い鳥(映画)」を鑑賞させた。鑑賞後の学生のレポートでは、講義内容をより具体的に考えさせることができたと思える内容が多くあった。
2 作成した教科書、教材 ① 教育相談のノウハウ	令和 2 年 4 月 ～令和 5 年 2 月	大阪学院大学教職課程の「生徒指導及び教育相談の理論と方法」の講義において、自身の教育相談の経験から導き出したノウハウをまとめた資料（和歌山県教育センター学びの丘研究紀要〔平成18年度〕掲載）を講義で使用する。教育相談の理論的内容を具体的に示しながら、実際の教育現場にそった、より実際的な教育相談の姿を伝えた。

氏名

<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>① 教員免許状更新講習会講師</p> <p>② 教員免許状更新講習会講師</p> <p>③ 初任者指導者研修会講師</p>	<p>平成 30 年 8 月</p> <p>令和元年 8 月 令和 2 年 8 月 令和 3 年 8 月 令和 3 年 4 月</p>	<p>大阪学院大学で行われた教員免許状更新講習会で現職教員に対し、「カウンセリングと子ども理解」及び「カウンセリングと教員」の講義を行い、試験を実施した。</p> <p>大阪学院大学で行われた教員免許状更新講習会で現職教員に対し、「カウンセリングと教員」の講義を行い、試験を実施した。</p> <p>和歌山県教育委員会が主催する初任者指導者研修会で、初任者に対する心理的サポートについて講演を行う。</p>
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
<p>1 資格、免許</p> <p>① 臨床心理士</p> <p>② 公認心理師</p>	<p>平成 23 年 4 月 1 日</p> <p>令和 2 年 8 月 14 日</p>	<p>登録番号 2 2 9 6 9</p> <p>第 3 5 3 9 2 号</p>
<p>2 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>① 和歌山県教育委員会学びの丘教育相談課 課長</p> <p>② スクール・カウンセラー</p> <p>③ 有田市立箕島中学校（現有和中学校）空手道部外部指導者</p>	<p>平成 22 年 4 月 ～ 平成 25 年 3 月</p> <p>平成 29 年 4 月 ～ 令和 5 年 3 月</p> <p>平成 31 年 4 月</p>	<p>教育相談課長として、教育相談事業（教育相談面接・教員研修等）を立案し、実施した。また、県内公立学校（小・中・高）の緊急対応にもあたり、心のケアを中心に行った。特に、紀伊半島大水害の時は、犠牲者のあった学校の再開に際し、生徒の心のケアを中心に学校支援を行った。</p> <p>スクール・カウンセラー（臨床心理士）として、不登校やいじめの問題など、学校からの要請に基づき、保護者及び本人の相談にあたる。また、それぞれのケースに対して、担任を中心にコンサルテーションを行う。</p> <p>正式に有田市立箕島中学校空手道部外部指導者として、部員の指導にあたっている。公益財団法人日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者 空手道コーチ 3。</p>
<p>3 その他</p> <p>①</p> <p>②</p>		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
<p>(学術論文)</p> <p>1 いじめ不登校ゼロを目指した学校作りの取り組み—プラス2・3の学校作りを目指して—</p> <p>2 『総合的な学習の時間』の地域学習におけるアイデンティティ形成</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成30年10月</p> <p>令和3年3月</p>	<p>大阪学院大学通信</p> <p>大阪学院大学 人文自然論叢 第81-82号</p>	<p>落ち着きのない学級では人間関係が不安定になりやすく、そこからいじめや不登校が発生しやすくなる。いじめ・不登校への対応は落ち着いた学級・学校であることが大前提となる。落ち着いた学級・学校運営はいじめ・不登校対応（予防）だけでなく、学力向上（学力保証）や体力の向上にも影響を与えるものである。このことを踏まえた上で、筆者が小学校の学校長として試行錯誤しながら取り組んだ実践事例である。</p> <p>アイデンティティの形成においては、それまでの生育歴が影響するのは当然であるが、自己のルーツも大事な項目の一つである。地域学習は単に地域のことを学習しているのではなく、自分自身のルーツに関わることを学んでいる。自分自身が生まれ育った地域の歴史や文化、伝統は自分のルーツに関わってくることであり、自分自身のルーツを学んでいるのである。自分の出自を明確にするとともに、自分自身が生まれ育った郷土への誇りを持つことは、自分のアイデンティティの確立に影響を与えるものである。</p>